

平成 31 年・令和元年度 事業報告書

特定非営利活動法人 くすの木自然館

1. 事業の方針

一つ目の目標であった、これまでの実績をもとに信頼を得てきた「環境教育」「学校・社会教育の現場での実践」「指導者養成」「環境地域づくりの実践」の分野の強化とより深い実践については、「指導者養成」以外の分野では前年度より実施回数や依頼の回数が増えたため、ほぼ 80%ほどの達成率であった。

二つ目の目標としていた、会員や寄付金の増、主催事業や物販の充実、独自の販売商品の選択と、販売ルートの開発に関しては、まったく進まなかった。くすの湯や始良市観光協会等へのオリジナル商品の委託販売などを行うことができ、物販事業の売り上げは上がったが全体としては 10%ほどの達成率であった。

【主な事業】

① 「重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム」委託管理

地域に根差した国立公園の展示施設として、多くの方にご利用いただいた。少し離れた地（牧園や湧水）からの遠足利用など、小学校の授業での利用や先生方への認知度が上がっている。

② 景観学習（鹿児島県）

鹿児島県が先駆的に取り組んでいる「景観学習」。今年度は、これまでの実績から県内のほぼすべての小学校へアドバイザーとしてかかわり、地元の景観の特異性とその重要性を伝えることができた。

③ 鹿児島県共生・協働センター運営委託事業

「鹿児島県共生・協働センター」の運営委託管理事業。

昨年度は共生・協働センターの認知度を上げることを目的に事業を行ったが、今年度は、より踏み込み、共生・協働とはそもそも何なのか？現在の社会背景はどのようなものかなどをもとに事業を実施。調査と研究を行い、多くの人に発信することができた。

また、NPO 法人の法令部分をつかさどる窓口としても、1年以上の経験を踏まえ、県の担当者とも協働し円滑に事業を実施した。

④ 企業と連携して行う自然体験事業（トヨタソーシャルフェス）

事業の大本である広告代理店からも高い評価を得ており、全国で唯一 3 年以上の受託を受けることができている。

⑤ 桜島・錦江湾ジオパーク編成における事務局との様々な協力

残念ながら、エリアの拡大は保留になったが、事務局や始良市との連携をとることが

でき、今後につなげる準備ができた。また、スタッフの大半は「認定ジオガイド」もとり、来年度以降、より深くかかわることができる。

⑥ 主催事業

ゴールデンウィークや夏休みに稼働できるスタッフが少なく、あまり数をこなすことができなかつたが、確実にリピーターは増えている。錦江湾学習会に至っては、様々なジャンルの先生方にご協力いただき、満足度の高い講座になっている。特に今年度より始めたフィールド講座は、参加者からの評価も高く来年度以降の実施も望まれている。

⑦ 会員制度の見直し

この点に関しては、本年の目標の一つではあったが、まったく実施できなかった。今のスタッフ態勢でのこれまでの会員制度の維持は難しく、今後、無料の会員制度の在り方やより深く応援してもらえる体制を作りこまねばならない。

⑧ 物販の充実と販路の拡大

物販内容や新規販売物の開発はできなかったが、始良市の観光案内所やくすの湯にて委託販売が増えたことで、物販品の売り上げは増えた。